

■活動開始年月:2019年

■企業ボランティアの数(実数):日本国内120人、海外347人(2020年実績)



■活動のきっかけや経緯:

(1)きっかけ

2019年の住友商事創立100周年に向け、2017年、グローバル全社横断の社員参加型100周年記念事業『22世紀プロジェクト』が立ち上がりました。この中で、「次の100年を考え、社員が現場と対話し、行動する社会貢献活動プログラムを立ち上げよう!」という声があがり、これを『100SEED』と名づけました。2019年には、世界中の当社グループ社員から声を集めてテーマや具体的な活動内容を決め、2020年から世界中で実践を始めています。

(2)経緯

2019年2~3月に専用WEBサイトを開設し、「SDGsの中で、『100SEED』として取り組むべき課題は何か?」という全社アンケートを実施。日本/東アジア/アジア大洋州/欧阿中東 CIS/米州のいずれの地域においても、“Quality Education”が上位に選ばれました。これを受け、各地域の代表社員が一同に会して改めて議論し、“Quality Education”を世界共通テーマすることを決定。このテーマの下、地域ごとに、それぞれの教育課題に沿った活動を立案しました。



国内では、同年6~7月に全国各地で31回のワークショップを開催。「教育」をテーマとした具体的な活動アイデアを収集し、11案に絞って、社員投票を行いました。投票結果も尊重しつつ、当社社員の強みを生かせるような活動や、非営利分野の組織とのタイアップで効果が出せるような活動を選び、2020年に「住友商事教育支援プロボノ」、キャリア教育支援「Mirai School」、「多文化共生社会を目指す教育支援」の3つの活動をスタートさせました。

リモートワークでプロボノ活動をスタート

【参考】

次の100年に向けたグローバル社会貢献活動「100SEED」(「ESGコミュニケーションブック2020」抜粋)

<https://www.sumitomocorp.com/jp/-/media/Files/hq/news/release/2020/13980/1.pdf?la=ja>

■ボランティア活動の内容:

(1)国内における活動

○住友商事教育支援プロボノ

教育分野に取り組むNPOの組織運営上の課題を、社員5人程度のチームによるプロボノで解決・支援する活動(営業ツールの制作、収益事業の企画案、マニュアル整備等)。活動量は、週5時間程度で3か月間。2020年度は、コロナ禍により、ほぼ全てオンラインで実施し、上半期に3団体、下半期に3団体を支援しました。支援先となるNPOとのマッチングやプロジェクト進捗サポートを、認定NPO法人サービスグラントに委託しています。

○キャリア教育支援「Mirai School」

変化の激しい時代に自らのキャリアを主体的に考えていく力を育む必要性を感じ、高校での出前授業を実施。社員自身のキャリアや仕事観、社会の変化やキャリアデザインについて、失敗談も交えて語ることで、高校生に将来のキャリアを考えるきっかけを提供する活動。約2時間の授業の後、希望者と座談会も実施。2020年度は全国の13校、1,800人の生徒に対し、社員50人が講師として講義をしています。いずれも学校とご相談しながら、万全の感染防止対策を講じ、対面での授業を行っています。

○多文化共生社会を目指す教育支援

増加する外国ルーツの子どもたちが抱える教育課題に着目し、公益財団法人日本国際交流センター(JCIE)が運営する休眠預金活用事業「外国ルーツ青少年未来創造事業」と連携して、同事業に採択された団体に対する人的支援の活動を開始したもの。活動内容は、①団体の運営基盤強化につながるプロボノ活動(SNSを用いた広報基盤の整備、寄付金拡大を目指した広報活動支援、収益事業のアイデア創出等)と、②団体が運営する学習支援教室での教科学習ボランティア。初年度は5団体に対し21人が支援活動を開始。来年度からは、その対象を7団体に広げる計画。『外国ルーツ青少年未来創造事業』の3年間の助成期間中、半年毎に社員メンバーを交代し、引継ぎを行いながら支援活動を継続する予定。団体とのニーズマッチングや活動進捗フォロー等の伴走支援を、JCIEに委託しています。

【参考】

JCIEのニュースリリース <http://www.jcie.or.jp/japan/2020/10/29/post-6553/>

(2)海外における活動

2019年度以降、2020年度上期までに、海外12か国26プロジェクトが始動。同年度内に、さらに7か国17プロジェクトの開始を目指しています。

■活用されている企業のリソースや従業員のアイデア:

○発案から全世界を対象にしたテーマ決定投票、ワークショップ形式での従業員からのアイデア収集など、活動内容決定までの企画プロセスは、すべて『22世紀プロジェクト』の社員代表メンバーによる議論から出てきたアイデア。

○「教育支援プロボノ」では、関係者への丁寧なヒアリングに基づく課題の洗い出しや整理、論点の可視化、ターゲットを意識したわかりやすい資料の作成、プロジェクトマネジメントなど、業務で培った各社員のスキルや経験を活用。メンバーの知識やスキルでカバーできない分野については、社内経験者や関連部署の知り合いに相談するなど、持てるリソースを活用して“チーム”での成果を図っています。

○キャリア教育「Mirai School」は、社員自身の学生時代を振り返り、「当時、将来キャリアを考える機会があれば、進学の実選択肢も広がったのに」とか、「学びは一生続く、その基礎が高校・大学時代。今になって気づいたこの思いを伝えたい」といった多くの社員の思いが原点。新学習指導要領のキャリア教育重視の方向性ともマッチすると考え、実施することとしました。

○「多文化共生社会を目指す教育支援」には、社員の子どもの学校にも外国ルーツの児童・生徒が増えていること、海外駐在時に子どもに現地で教育を受けさせ、近隣の人々や学校が支えてくれた経験などがベースにあり、自分たちにも何かできないかという社員の思いがありました。また留学経験のある社員からは、マイノリティとして学んだ経験により、多文化理解と周囲のサポートの重要性についての声が多く寄せられました。社員の異文化コミュニケーション力を生かして活動しています。



支援先 NPO 法人 glolab の皆さんと

■活動を通じて得られた成果:

○教育支援プロボノ(成果報告会、支援先団体および参加社員アンケートより)

支援先からは、「活動に理解を示し、悩みに寄り添ってくれたことが何よりうれしかった」、「客観的な目線で、斬新なアイデア・意見を多くいただき、とても勉強になった」、「やるべきことやその理由が見える化され、スタッフの自信につながった。これまでのプロボノで一番！」など、プロボノチームの成果のみならず、当社社員の活動姿勢についても、評価をいただいています。

また、参加社員からは、「年次を超えたフラットなチームで成果を出すのが楽しかった」、「人のためになっていることが実感できた」、「社会課題に最前線で取り組んでいる NPO 代表とダイレクトに話ができて、たくさんの刺激をもらった」、「チーム全員が自発的に行動する、このスタイルを仕事にも生かしたいと思った」などの声が寄せられており、本業では得られない経験から、多くの刺激を受けている様子です。

○キャリア教育「Mirai School」(授業後の生徒アンケートより)

生徒へのアンケートで「授業を受けて、自分の進路に対する考え方に変化があったか？」を聞いたところ、6割以上の生徒が「あった」と回答。授業を受けて考えたこととして「高校・大学で何をするか、どうやって過ごすのかが将来に繋がると思った」、「一つの考えにこだわらず、自分なりの挑戦を続けて行きたい」、「変化する社会に対応する力を付けたい」、「自分の人生が自分でできる、という点が印象に残った」、「初めて、大人の世界の仕事を生で体験した感覚」、「一人ひとりに違う道があることが分かった」といった、新たな気づきや決意、行動に繋がるような前向きなコメントが多数寄せられました。

○多文化共生社会を目指す教育支援(支援団体と参加社員からのフィードバック)

活動開始からまだ数か月しか経過していませんが、この間、支援先団体からのフィードバックとして「念願だった Facebook ページの開設ができて感謝」、「これから法人化をめざす段階で、メンターのようになんでも相談に乗ってもらっている」、「のんびり活動していた自分たちに刺激になった」という声が寄せられています。

また、参加社員からは、「(外国ルーツの中学生の学習支援に参加して)日本語が達者に喋れても、学習に必要な日本語の理解は難しいという課題を目のあたりにした。学校の授業についていくためのサポートができるよう、尽力したい」という声があがっています。

■その他:

『100SEED』の活動時間は、業務に準じるとして、1人当たり年間100時間を上限に勤務時間とみなすガイドラインを置いています。ただし、組織が参加を強制するものではなく、社員の自発的参加を前提としており、参加する社員も、送り出す職場も含めて全員で取り組む活動を目指しています。